

# 北海道におけるツメナガセキレイの繁殖期の分布

藤巻裕蔵

〒072-0005 美瑛市東4条北2丁目6-1

## Distribution of the Yellow Wagtail, *Motacilla flava*, in Hokkaido during the Breeding Season

Yuzo FUJIMAKI

Higashi 4, Kita 2-6-1, Bibai, Hokkaido, 072-0005 Japan

**Abstract.** The Yellow Wagtail, *Motacilla flava*, was censused along 1,169 transects (2 km in length) situated in 1,034 quadrats (4.5 x 5.0 km in size), in Hokkaido from late April to late July, 1976–2019. The distribution data for Yellow Wagtails were obtained additionally from spot census results and a review of the literature. Distribution data were obtained from a total of 1,662 quadrats including 1,034 quadrats above-mentioned. Yellow Wagtails were recorded in northern areas, occurring in 2.0 % of 1,662 quadrats. The southernmost points at which Yellow Wagtails were recorded are 44.16N along the Japan Sea and 43.56N along the Okhotsk Sea. At present it is considered that breeding population densities of this species are very low.

### はじめに

日本ではツメナガセキレイ *Motacilla flava* の3亜種が記録されており、このうち亜種ツメナガセキレイ *M. a. taiwana* が北海道北部で繁殖する(日本鳥学会, 2012)。繁殖が明らかになったのは比較的最近のことであるが、具体的にいつ頃から生息し、繁殖するようになったかは明らかではない。また、その後繁殖期の分布域も他の地域にそれほど広がっていないようである。今後ツメナガセキレイの分布域が広がるかどうかについては予測できないが、分布域が変化する可能性のある種について、現時点での分布を明らかにし、分布域変化の経緯がわかるようにしておく必要がある。

この報告では、北海道各地で行った鳥類調査の結果と論文・報告書、探鳥会の記録や個人の未発表記録などに基づいて、繁殖期におけるツメナガセキレイの分布についてまとめた。

### 調査地および方法

調査地は一部の離島(奥尻島, 利尻島)を含む北海道全域であるが、おもに調査したのは中央部と南東部である。また、標高では海岸部から1,900mまでの範囲である。

5万分の1の地形図(日本測地系に基づく地形図)を縦横それぞれ4区分した区画(約4.5km × 5.0km)を設定し、1976～2019年の4月下旬～7月下旬に1,034区画で調査した。各区画に2kmの調査路を1か所、一部の区画では複数の調査路を設けたので、調査路総数は1,169か所である。1調査路につき4～7月に1～2回調査した。調査時間帯は夜明けから8時ころまでで、調査路を約2km/時で歩きながら観察された種を記録した。

このほか、分布図作成のため、調査結果を補う目的で、前述の1,034区画以外の157区画で上記の調査と同じ期間に定点調査を行った。この調査で

は、区画内の任意の場所で日中の20～30分間に観察された種を記録した。

さらに論文や各種報告書（阿部ほか，1970；由井，1970；黒田ほか，1971；石城・松岡，1972；松岡，1973；阿部，1975；正富，1976；佐藤・石川，1981；橋本，1982，1986，1987，1988，1993，1996，2007；川辺・阿部，1982；鈴木ほか，1983，1989；川辺，1985，2008，2009；中川・藤巻 1985；松本ほか，1986；鈴木，1986；二村，1987，2004；三浦，1988，1989；小杉，1988，1989，1992；鈴木ほか，1990，1991；日野・中野，1992；磯，1987，1988，2005，2007，2008；正富・富士元，1987；芳賀・小林，1989；旭川市，1991；北海道，1992，1994；北海道環境科学研究センター，1993，1994，1996；富川ほか 1995；島田，1996；筒淵，1998；道川ほか，1999；北海道野鳥愛護会，2001；今野・藤巻，2001；高田，2001；池田，2005；玉田・梅木，2007；森，2010；嶋崎 2006；嶋崎ほか，2014；宮本，2017；貞国 2019；富川，2019；

渡辺，2019）の調査結果や日本野鳥の会各支部報（道南桧山，室蘭，札幌，オホーツク，道北）の記録，未発表の個人記録も用いた。これらから705区画（このうち244区画はラインセンサス・定点調査を行った区画と重複）の記録が得られた。ラインセンサス・定点調査を行った区画とそれ以外の471区画を併せ，計1,662区画についてツメナガセキレイの在・不在の記録が得られた。なお，このセキレイが1回でも記録されていれば，当該の区画に分布するとした。

### 結果と考察

調査した調査路1,169か所と定点調査地157か所ではツメナガセキレイは観察されなかった。観察記録は全て論文・報告書と支部報から得られたものと個人記録である。なお，これらの記録では亜種が不明なので，以後の使用した記録に関する記述では種ツメナガセキレイとして述べることにする。

ツメナガセキレイの在・不在記録のある1,662区画のうち，この種が観察されたのは，33区画，

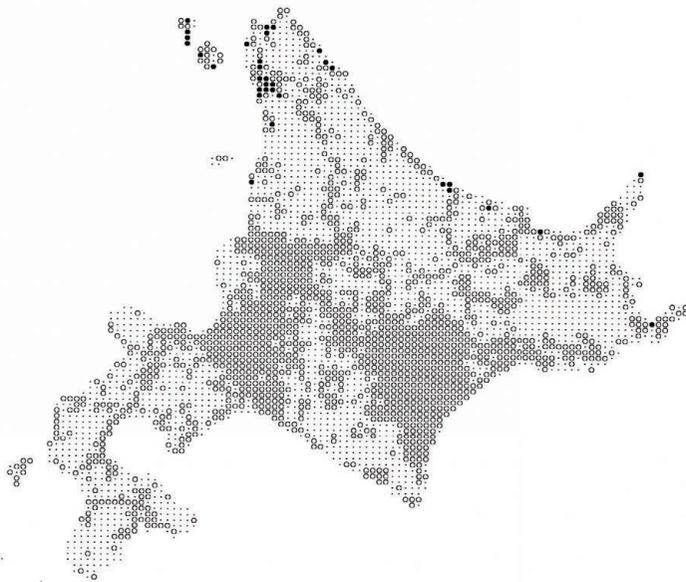


図1. 北海道におけるツメナガセキレイの繁殖期の分布(1976～2019)。円は4.5×5kmの区画を示す。●=観察された区画，○=観察されなかった区画，・=未調査区画。

Fig. 1. Distribution of *Motacilla flava* during the breeding season in Hokkaido (1976–2019). Circles represent 4.5 x 5.0 km quadrates. ●=quadrats with birds detected, ○=quadrats with no birds detected, ・=quadrats with no census.

2.0%であった。これらの区画がある程度まとまって見られたのは、北部の礼文・利尻両島、稚内、豊富、幌延、遠別、浜頓別、紋別で、このほか北見（常呂）、知床半島先端部、根室で観察されている（図1）。根室の記録は、春国岱における1995年4月29日と1999年5月の観察である（高田，2001）。時期的にみて前者は渡り途中の可能性がある。後者は日付不明であるが、上旬であれば、これも渡り途中の可能性がある。また、1997～2002年の環境省による全国鳥類繁殖分布調査（環境省自然環境局生物多様性センター，2004）の結果では、1/5万地形図の羽幌、上渚滑、中湧別、雄信内、抜海、枝幸、鬼志別、礼文島北部、稚内に相当するメッシュにツメナガセキレイの記録がある（これらの記録はこの論文で採用している区画のどこに位置するのか不明のため、分布図のデータとしては使用しなかった）。以上、得られた結果では、ツメナガセキレイはおもに北部に生息しており、日本海側では苫前の田淵沼（44.16N）、オホーツク海側では小清水の原生花園（43.56N）にまで分布を広げている様子が見える。

北部でツメナガセキレイが観察された場所の最南部は、上述のように日本海側では苫前（44.16N）、オホーツク海側では小清水（43.56N）である。43.55N以北における調査路か所数は88か所である。ツメナガセキレイと同様に開けた環境に生息するハクセキレイ *Motacilla alba* は、このうち41か所、46.6%で観察されたのに、ツメナガセキレイはまったく観察されなかった。また、後述のように、1977年には北部でツメナガセキレイの繁殖が確認されていたが、環境庁（1979）による1978年の全国鳥類繁殖分布調査ではこの種の記録がまったくなかった。これらのことは、このセキレイの生息密度がかなり低かったことを示していると考えられる。しかし、1997～2002年の調査では上述のように9メッシュで記録されているので（環境省自然環境局生物多様性センター，2004）、生息密度が次第に増加した可能性がある。

ツメナガセキレイが北海道で繁殖期に何時頃から生息し、繁殖するようになったのかははっきりして

いない。Brazil（1991）によると、ツメナガセキレイは日本では1953年までは迷鳥で、この年以降本州などで稀な旅鳥として見られるようになったという。日本鳥類目録では改訂第5版（日本鳥学会，1974）までツメナガセキレイは、本州などで稀な旅鳥で、北海道には生息しないことになっている。1977年になって亜種ツメナガセキレイの繁殖が、稚内、豊富、浜頓別で巣と雛、または巣立ち幼鳥の観察により初めて確認された（森岡ほか，1978）。このことを受けて、日本鳥類目録改訂第6版（日本鳥学会目録編集委員会，2000）では亜種ツメナガセキレイが北海道北部で繁殖するとされた。北海道におけるツメナガセキレイの古い記録としては根室1974年9月の記録があるが（高田，2001）、上述のようにこれは渡り途中の個体の可能性がある。以上に述べたことに基づくと、北海道でツメナガセキレイは、1953年から1977年の間に旅鳥として渡来するようになり、やがて繁殖期にも留まるようになって、北部で繁殖するようになったと言える。

極東におけるツメナガセキレイの繁殖分布域は、北海道北部のほかでは、ロシアのオホーツク海北部沿岸（シェリホフ湾）から南はアムール川下流部とプリモリーエ北部まで、シャンタル諸島、サハリンで（Nechaev & Gamova, 2009）、サハリンでは普通に繁殖している（Nechaev, 1991）。このような繁殖期の分布域を考慮すると、サハリンで繁殖する個体群が南に繁殖分布域を広げ、北海道北部で繁殖するようになった可能性が高いと言えるだろう。

## 謝辞

ツメナガセキレイの観察記録を提供していただいた大館和広、渡辺義昭、渡辺恵の各氏にお礼申し上げます。

## 引用文献

- 阿部永，1975. パイロットフォレスト造成に伴う環境の変遷. VI 鳥類. 帯広営林局編，パイロットフォレスト造成に伴う環境の変遷：117-133. 帯広営林局. 帯広.
- 阿部永・小林恒明・石城謙吉・太田嘉四夫，

1970. 北大中川地方演習林鳥類調査報告その1. 北海道大学農学部演習林研究報告, 27: 69-77.
- 旭川市, 1991. 自然保護調査報告書総集編, 旭川の動・植物-目録・解説. 旭川市. 旭川, 298pp.
- Brazil, M. A., 1991. The Birds of Japan. Christopher Helm, London, 466pp.
- 芳賀良一・小林茂雄, 1989. 帯広市岩内自然の村の鳥類. 帯広百年記念館紀要, 7: 1-6.
- 橋本正雄, 1982. 釧路管内鳥類観察記録(2), -1971-1980-. 釧路博物館紀要, 9: 9-18.
- 橋本正雄, 1986. 釧路湿原釧路川築堤沿いの鳥類センサスについて. 釧路市立博物館紀要, 11: 61-70.
- 橋本正雄, 1987. 北海道東部, 阿寒湖およびその周辺の鳥類センサスについて. 釧路市立博物館紀要, 12: 7-22.
- 橋本正雄, 1988. 釧路湿原鳥類センサスについて. 釧路市立博物館紀要, 13: 9-18.
- 橋本正雄, 1993. IX. 阿寒川水系の鳥獣. 阿寒川水系総合調査報告書, 131-150. 釧路市立博物館・前田一步園財団, 釧路・阿寒
- 橋本正雄, 1996. 釧路管内鳥類観察記録(4) - 1981 ~ 1990 -. 釧路市立博物館紀要, 20: 13-22.
- 橋本正雄, 2007. 釧路支庁管内鳥類観察記録(6) - 1991 ~ 2000 -. 釧路市立博物館紀要, 31: 11-19.
- 日野輝明・中野繁, 1992. 北海道北部の落葉広葉樹林における繁殖期の鳥類群集. 北海道大学農学部演習林研究報告, 49: 195-200.
- 北海道, 1992. 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 別寒辺牛湿原・別当賀川下流域. 北海道. 札幌. 156pp.
- 北海道, 1994. 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道東圏域(平野・海岸部). 北海道. 札幌. 292pp.
- 北海道環境科学研究センター, 1993. 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道南圏域・道央圏域. 北海道環境科学研究センター. 札幌. 299pp.
- 北海道環境科学研究センター, 1994. 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道北圏域 17 地域・道央圏域 2 地域. 北海道環境科学研究センター. 札幌. 258pp.
- 北海道環境科学研究センター, 1996. 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道東圏域(山岳部) 12 地域. 北海道環境科学研究センター. 札幌. 322pp.
- 北海道野鳥愛護会, 2001. 私たちの探鳥会-探鳥会 30 年の記録-. 北海道野鳥愛護会. 札幌. 176pp.
- 池田亨嘉, 2005. おもに十勝地方で観察された鳥類 1999 ~ 2004 (2). 帯広百年記念館紀要, 23: 9-24.
- 石城謙吉・松岡茂, 1972. 北海道大学苫小牧地方演習林の鳥類相その1. 広葉樹天然林と針葉樹人工林における夏期の種構成と生息密度. 北海道大学農学部演習林報告, 29: 43-54.
- 磯清志, 1987. 上川町産鳥類目録. 層雲峡博物館研究報告, 7: 9-20.
- 磯清志, 1988. 大雪山黒岳総合調査報告, 黒岳の鳥類. 上川町の自然, 13: 1-15.
- 磯清志, 2005. 愛山溪(安足間川流域)の鳥類. 層雲峡ビジターセンター研究報告, 25: 1-16.
- 磯清志, 2007. 天塩川上・中流域の鳥類. 層雲峡ビジターセンター研究報告, 27: 17-28.
- 磯清志, 2008. 浮島湿原の鳥類相. 上川町の自然, 20: 23-32.
- 環境庁, 1979. 第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書(鳥類). 環境庁. 東京. 560pp.
- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2004. 種の多様性調査・鳥類繁殖分布調査報告書. 環境省自然保護局生物多様性センター. 富士吉田. 343pp.
- 川辺百樹, 1985. 大雪山国立公園, 原始ヶ原湿原の鳥相. ひがし大雪博物館研究報告, 7: 43-48.
- 川辺百樹, 2008. 大雪山国立公園鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告, 25: 1-49.

- 川辺百樹, 2009. 上士幌町鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告, 31: 1-16.
- 川辺百樹・阿部永, 1982. 十勝川源流部原生自然環境保全地域の鳥類. 日本自然保護協会編, 十勝川源流部原生自然環境保全地域調査報告書: 247-261. 日本自然保護協会, 東京.
- 小杉和樹, 1988. 利尻島の鳥. 利尻町立博物館年報, (7): 43-54.
- 小杉和樹, 1989. オタドマリ沼の鳥. 利尻町立博物館年報, (8): 47-60.
- 小杉和樹, 1992. 利尻島の鳥類. 北海道の自然と生物, 6: 42-49.
- 小林四郎, 1995. 生物群集の多変量解析. 蒼樹書房. 東京, 194pp.
- 今野怜・藤巻裕蔵, 2001. 繁殖期における利尻山の鳥類. 帯広畜産大学研究報告, 22: 125-133.
- 黒田長久・白附憲之・千羽晋示・小笠原暁・由井正敏, 1971. JIBP 主調査地, 大雪山地域の動物相調査報告 III. 大雪山の鳥類調査(1970年7月). 加藤陸奥雄編, 陸上生態系における動物群集の調査と自然保護の研究, 昭和45年度研究報告: 23-50. JIBP/CT-S セクション, 仙台.
- 正富宏之, 1976. 大雪山系自然生態系総合調査中間報告(第2報), 第二章鳥類調査. 大雪山系自然生態系総合調査中間報告(第2報), pp.195-222, 北海道, 札幌.
- 正富宏之・富士元寿彦, 1987. 北海道北部サロベツ原野の鳥類相. 専修大学北海道短期大学紀要(自然), 20: 253-280.
- 松本光二・黒田弘章・水間秀文, 1986. 名寄の鳥類とその生息環境. 名寄市郷土資料報告, 1: 7-18.
- 松岡茂, 1973. パイロットフォレストの鳥類相—夏期—. 北方林業, 25: 329-334.
- 道川富美子・丹羽真一・渡辺修・道川弘・渡辺展之, 1999. 北海道北部, 霧立峠周辺の針広混交林の鳥類相と植物相. 士別市博物館報告, 17: 47-59.
- 三浦二郎, 1988. 檜山道立自然公園総合調査 IV 動物, 第2章鳥類. 道立自然公園総合調査(檜山道立自然公園)報告書, pp.176-202, 北海道自然保護協会, 札幌.
- 三浦二郎, 1989. 狩場茂津多道立自然公園調査 IV 動物, 第2章鳥類. 道立自然公園総合調査(狩場茂津多道立自然公園調査)報告書, pp.123-146, 北海道自然保護協会, 札幌.
- 宮本誠一郎, 2017. 礼文島の鳥類(2). 利尻研究, (36): 1-12.
- 森信也, 2010. 知床五湖, ルンヤおよび知床岬における鳥類観察記録 2003-2009. 知床博物館研究報告, 31: 15-24.
- 森岡弘之・高野伸二・黒田長久, 1978. 日本鳥類目録(1974)補遺(第2回). 鳥, 27: 113-117.
- 中川元・藤巻裕蔵, 1985. 遠音別岳原生自然環境保全地域における鳥類. 遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書, pp.79-404. 環境庁自然保護局, 東京.
- Nechaev, V. A., 1991. Birds of Skhalin Island. Amur-Ussurian Birds Diversity Center, Vladivostok. (In Russian with English summary).
- Nechaev, V. A. & T. V. Gamova, 2009. Birds of Russian Far East (An annotated catalogue). Dal'nauka, Vladivostok.
- 日本鳥学会, 1974. 日本鳥類目録改訂5版. 学研, 東京.
- 日本鳥学会目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田, 438pp.
- 二村一男, 1987. 北海道演習林の鳥類相. 京都大学農学部演習林集報, 17: 1-13.
- 二村一男, 2004. 京都大学北海道研究林白糠区の鳥類相. 標茶町郷土博物館報告, 6: 49-63.
- 貞国利夫, 2019. 釧路湿原鳥類目録—1935年～2019年の記録—. 釧路市博物館紀要, 38: 23-80.
- 佐藤正三・石川信夫, 1981. 大雪山勇駒別及び姿見付近の鳥類調査. 北海道教育大学大雪山自然教育研究施設研究報告, 16: 15-27.

- 嶋崎太郎, 2006. 美幌町内の公園における繁殖期の鳥類相. 美幌博物館研究報告, 13: 59-66.
- 嶋崎太郎・川崎康弘・町田善康, 2014. 美幌町鳥類目録. 美幌博物館研究報告, 21: 27-62.
- 島田明英, 1996. 美幌町鳥類調査 (1996年). 美幌博物館研究報告, 4: 1-18.
- 鈴木祥悟・由井正敏・伊藤功・高橋和規, 1990. 奥尻島の鳥類-繁殖期の森林性鳥類群集. 北方林業, 42: 197-201.
- 鈴木祥悟・由井正敏・伊藤功, 1991. 北限地帯ブナ林の繁殖期の鳥類群集. Strix, 10: 213-218.
- 鈴木悌司, 1986. 十勝西部のカラマツ人工林における鳥類の繁殖密度. 日本林学会北海道支部論文集, 34: 121-123.
- 鈴木悌司・斎藤新一郎・斎藤満, 1983. 岩見沢地方の天然生落葉広葉樹林における繁殖期の鳥類群集. 北海道林業試験場研究報告, 21: 95-103.
- 鈴木悌司・宮木雅美・斎藤満, 1989. トドマツ高齢人工林における繁殖期の鳥類相. 日本林学会北海道支部論文集, 37: 116-118.
- 高田令子, 2001. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要, 15: 95-114.
- 玉田克巳・梅木賢俊, 2007. 札幌市と小樽市の鳥獣保護区に生息する繁殖期の鳥類. 北海道環境科学研究センター所報, 33: 58-65.
- 富川徹, 2019. 夕張岳の鳥類. ユウパニコザクラの会30周年記念誌編集委員会 編, 夕張岳, 大いなる自然, その魅力を訪ねて: 74-98. ユウパニコザクラの会. 江別.
- 富川徹・小畑淳毅・福岡将之, 1995. 礼文島における春季 (1994) の鳥類相. 利尻研究, (14): 11-16.
- 筒淵美幸, 1998. 十勝地方の中部と北部における鳥類センサス. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, 20: 79-89.
- 渡辺恵, 2019. 網走市こまば木のひろばの鳥類相. 知床博物館研究報告, (41): 41-47.
- 由井正敏, 1970. 標茶パイロットフォレストの鳥類相. 北方林業, 22: 329-334.